

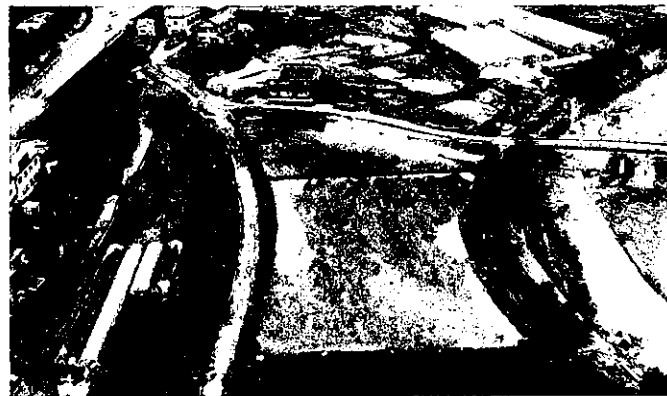
災害復旧状況 (農) 大肥郷ふるさと農業振興会

平成29年の九州豪雨災害では大分県西部地域にも大きな被害がありました。(農)大肥郷ふるさと農業振興会(※以下、(農)大肥郷)が耕作する日田市の大鶴・夜明地区でも、大肥川などが氾濫し、農地への土砂の流入や農地の流亡などの被害がありました。農地の復旧にあたり、(農)大肥郷が中心となり地元をまとめ、行政(市・県)と一体となって今後の担い手や農地利用のあり方について検討を重ねてきました。

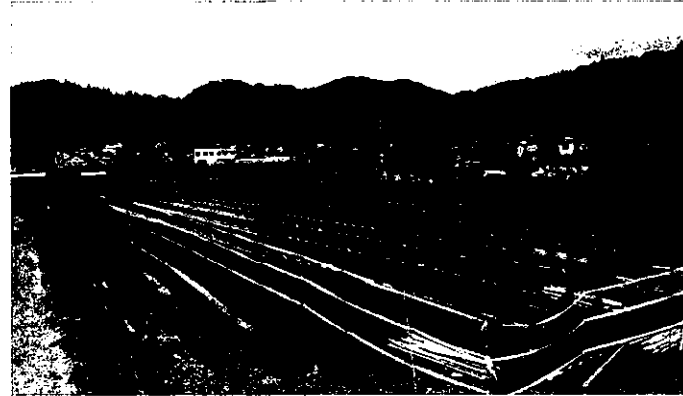
その結果、県営経営体育成基盤整備事業により農地の一部が復旧するとともに、復旧した農地において新規就農者を1名受け入れ耕作を開始することができました。新規就農者の田代氏は、復旧した農地にピーマン、サトイモを作付けしています。また、(農)大肥郷の若手オペレーターの藤田氏は、昨年からの法人のオペレーター作業に加えて、地域内で自ら水稻やタマネギの栽培に取り組んでいます。大鶴・夜明地区では、高齢化に伴い農業者が減少する中、(農)大肥郷に加えて地域の新たな担い手が続々と誕生しています。

一方、(農)大肥郷は復旧した大区画農地で水稻の乾田直播栽培に取り組んでいます。乾田直播は、育苗や代かきなどの作業を省略できるほか、特に大規模ほ場では苗の補給が不要なため作業効率の向上が見込めます。

日田市内では、まだ、被災の爪痕が残っていますが、復興へ向け集落営農法人が中心となった取組が各地で進んでいます。



被災直後の農地



復旧した農地

西部振興局 集落営農担当のご紹介

人事異動で集落営農・農地活用班も人員の入れ替わりがありました。本年度は以下の分担で集落営農を担当していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



後藤 雨川 菊屋 岸元

| 氏名 | 地区名 | | | | | |
|--------|------|-----|-----|----------------------|-----|-----|
| | 旧日田市 | 天瀬町 | 大山町 | 前津江町 中津江村 上津江町 | 玖珠町 | 九重町 |
| 後藤 貴洋 | | | | ○ | | |
| 雨川 公洋 | ○ | | ○ | | | |
| 菊屋 良幸 | | ○ | | | ○ | |
| 岸元 那津実 | | ○ | | | | ○ |

作成・発行 大分県西部振興局生産流通部 集落営農・農地活用班

監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL : 0973-23-2217 FAX : 0973-23-3473

集落営農かわら版

令和2年6月15日 VOL. 34
大分県西部振興局生産流通部
大分県集落営農推進西部支部

西部地区集落営農組織人材育成研修

現在、西部管内では71の集落営農組織が設立されていますが、設立から経営を維持できているものの代表や役員への交替が進んでいない組織やオペレーターの後継者が育たず人員確保が課題となっている組織が多くなっています。

そこで、集落営農組織の後継者確保・育成について各組織での対応力強化を目的に、令和2年2月に「西部地区集落営農組織人材育成研修」が開催されました(日田会場、玖珠会場の2会場で実施)。

研修では、(農)グリーン法人中野(豊後大野市)の和田梢組合長(日田会場のみ)、(農)大肥郷ふるさと農業振興会の佐谷野利幸理事(玖珠会場のみ)、(農)グリーンファーム畑(豊後高田市)の早田政徳理事が別府大学の森宗一講師の質問に答える形で、自分たちが法人の運営に関わる前後での印象や自分たち世代へ交代される前にやっておいて欲しかったことなどが紹介されました。研修の中で4名の講師からは以下のようなお話がありました。



研修の様子(玖珠会場)

(農)グリーン法人中野/和田組合長



- ・事務だけを担当していた時は、法人は経営余剰もあり回っているように見えた。経営する側に入ってみると回すことが難しいことが分かった。初代組合長が組合を回していたので、その人が亡くなると組合としての動きが分からなくなった。
- ・作業の一連が分かるものを残しておいて欲しかった。こんな時はどうするといったケース事例を含めて。

和田組合長

・「20年後の農地を守る人をつくる」のが目標。誰か欠けても運営できる体制をつくりたい。

(農)大肥郷ふるさと農業振興会/佐谷野理事

- ・最初の頃は、水稻の水管理や除草に苦労した。
- ・経営を成り立たせていかなければならない。投資すべきところは投資し、節約すべきところは節約していく。
- ・米大豆に代わる品目を見極めていかなければならない。

(農)グリーンファーム畑/早田理事

- ・理事になってから、作業道を整備し、大型機械を導入して作業効率の改善を図った。
- ・近隣法人と合併して、資材・人材(移住者等)を共有したい。人材(事務、現場)の確保と、圃場整備(未整備田が8haある)をやっておいて欲しかった。



早田理事と佐谷野理事

別府大学／森講師

- ・ 地区外からオペレーターを雇用したことで考え方が変わった組織、集落営農法人から個人経営体へ無償譲渡しようとしている事例、広域化の事例などがある。
- ・ 仕事のマニュアル化+仕事ができる場づくりが必要。
- ・ 5Sが必要。整理、整頓、清掃、清潔、^{しつけ}躰。
- ・ 仕事内容が伝わっていない。若い人達が何をしたらよいのか分からないので後継ぐことに対して不安になる。後継者をつくりたいなら、大変そうに見せないこと。



別府大学／森講師

講演の後は、参加者がグループに分かれて「若い人材に組織に入ってもらうためにどのような手法をとったらいいか」というテーマで意見交換会を行いました。作業の後に飲み会を開く、日曜日に農作業体験をしてもらう、家を確保するなど、たくさんの意見が出されました。皆さまの組織、地区でも後継者確保のためにどうしたらよいか意見交換をしてみたいはいかがでしょうか？

玖珠九重集落営農組織連絡協議会 食味コンクール表彰式

玖珠九重集落営農組織連絡協議会では高品質、良食味に優れた玖珠九重米の生産振興のため米の食味コンクールを行っており今回で4回目の開催となりました。令和2年2月の連絡協議会代表者会議にて、食味コンクールの表彰式が行われました。

- ～第4回食味コンクールの各部門最優秀賞～
- コシヒカリ部門 最優秀賞 菅原営農組合
- ひとめぼれ部門 最優秀賞 菅原営農組合
- ヒノヒカリ部門 最優秀賞 早杉営農組合
- その他品種部門 最優秀賞 有限会社小田アグリファーム



第4回食味コンクール表彰式

サトイモ栽培への挑戦！ 合同会社いりどり

玖珠町の西部に位置する浦河内地区には5つの集落営農法人と2つの任意組合があります。いずれも水稲を中心とした集落営農組織ですが、農地の活用と新たな収益確保のため、ニンニクや甘藷、サトイモ、エダマメといった園芸品目の栽培に取り組んでいます。今回は、地区内の集落営農法人 合同会社いりどり（※以下いりどり）のサトイモ栽培への挑戦を紹介します。

いりどりでは、実証的な取組としてサトイモを栽培しています（約40a）。品種は「大和」です。まずは中古の歩行型畝立てマルチ張り機を購入し、畝立てマルチ張りの作業を行いました。その後、手作業で種芋を植付けました。今後は芽かきや病害虫防除、除草管理を行い、収穫に向け管理を徹底していくそうです。

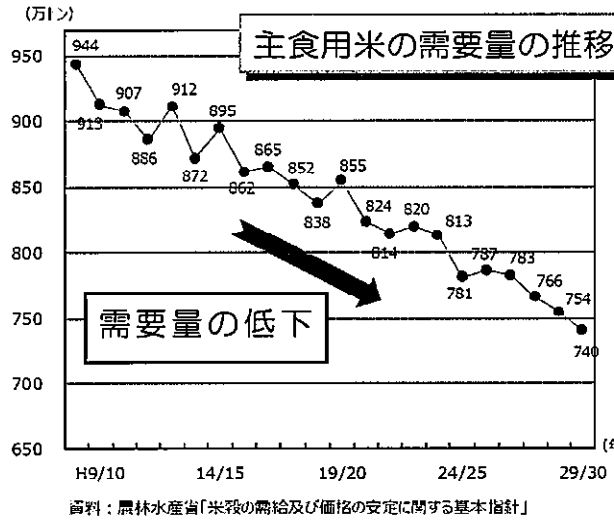
サトイモ栽培の盛んな豊後大野市では、集落営農法人で共同所有している歩行型移植機による植付が行われています。いりどりでも移植機の購入を検討しているそうです。一緒にサトイモ栽培に取り組んでくれる方を探しているそうなので、興味のある方は是非お声かけください。（ちなみに畝立てマルチ張りも応援してくれるとのこと。）



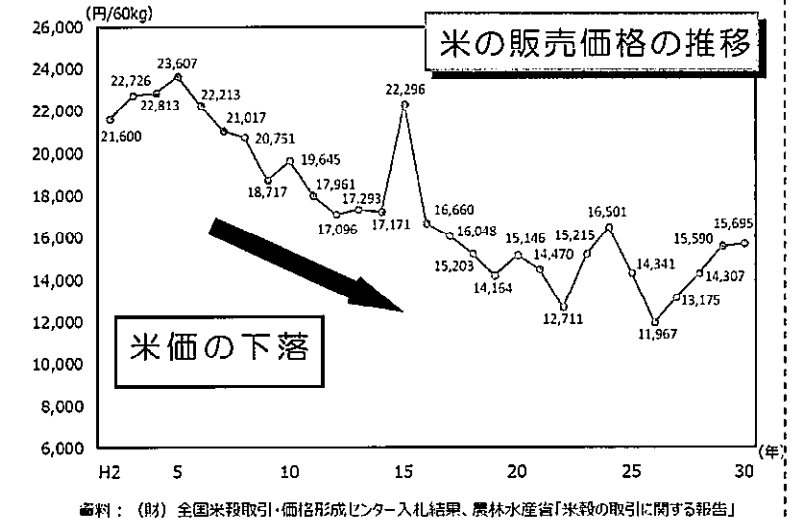
サトイモ植付け後の様子

**～ 米からの転換！ ～
水田の畑地化による園芸品目の導入**

大分県農業では、耕作面積のうち米の作付が比較的多いなか、米の需要量が減少している現状と生産調整制度の廃止による過剰生産、それに伴う米価の低下、そして米の直接支払交付金の廃止から、稲作生産者や集落営農組織の経営に直接影響を及ぼすことが心配されています。この傾向は大分県だけでなく、全国的に見ても同じ状況であり、集落営農組織にとって大きな転換期にあります。

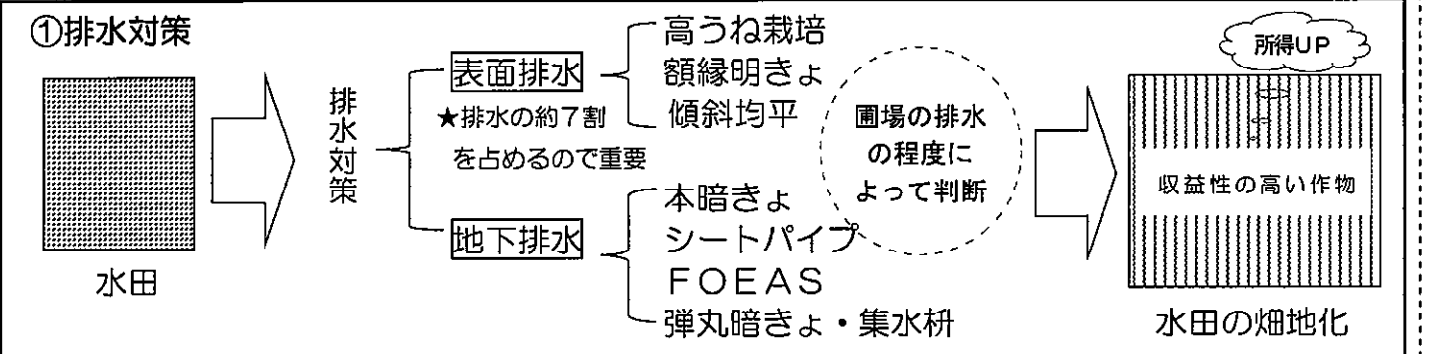


資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」



資料：(財)全国米取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「米穀の取引に関する報告」

上記の背景から、稲作主体生産者の所得向上に向けて、①水田に排水対策を行って畑地化し、②稲作から収益性の高い作物(園芸品目)に転換していきましょう。導入品目や栽培については、ご相談ください。



農地の貸し借りの際は、農地中間管理機構の活用を！

農地中間管理機構とは、農地の集積・集約化を進めるための支援策です。農地の賃貸借契約の際には、農地中間管理機構の利用をお願いします。地域内の農業を守り、健全な状態で農地を次世代に引き継ぐために、地域が一体となって農地の集積・集約化を進めましょう。

【農地中間管理事業 問い合わせ先】

- 日田市農業振興課 TEL:0973-22-8211
- 九重町農林課 TEL:0973-76-3804
- 玖珠町農林課 TEL:0973-72-7164
- 大分県西部振興局農山村振興部 TEL:0973-22-2585

